

「感性を豊かにし、生徒が主体的に取り組む題材の開発」

～学びの「つながり」を意識した活動を通して～

小田切 武

1 主題設定の理由

本校の美術科では一昨年度まで「生徒が学びを実感できる題材の開発」をテーマとしてきた。「生徒が学びを実感する」とは、「生徒自身が本来持つ資質や能力の高まりを自覚する」ことである。子どもたちは発達の過程で、さまざまな経験から自分と周りの世界とを感覚や感情、動作によって確認し、自ら育んできた資質や能力と関連づけながら自己を更新し続けている。

ところで平成16年度に行われた国立教育政策研究所の調査によると、総じて子どもたちは、図工・美術に高い興味・関心を示してはいるが、役に立つか立たないかというアンケートではそれ程役に立たないかもしれないと回答している傾向がある。これは民間機関での調査でもほぼ同様な傾向が現れているようであり、経済状況によって最初に文化的事業の予算がカットされる大人社会の認識ともつながるものである。このようなことから「学びを実感する」ことが、子ども自身その重要性を感じ、主体的に取り組む姿勢につながるのではないかと、ひいては教科としての必要性を認識することにもつながるのではないかと考えた。

ところが、資質や能力がはっきりと目に見えて現れるものは良いけれども、発想力が豊かになったとか、創造的に制作できるようになったなど、数値化できない抽象的なものを実感するためには、生徒自身が日頃から意識し、自分がどの位置に立っているかを常に自覚する必要がある。一昨年度までの実践をしての反省では生徒一人ひとりが本当に学びを実感できていたのかをいろいろな角度から検証する必要がある、その時間が実際にはあまり作れなかったことが今後の課題であり、今後とも授業ごとクラスごと個人ごとに生徒の様子を適切に読み取り、必要な支援を行えるようにしたいとまとめている。

そこでまず「学びを実感する」ためには、平成24年度から実施される新しい学習指導要領に「感性を働かせながら」とあるように、本来持っている自分の感覚や活動を通して「形や色、組み合わせなどの感じをとらえ」、「自分のイメージをも」つことを確認していく必要がある。その上で、社会的な現象や文化的な概念などもツールとして使える中学校での「感性を豊かにし」て、現在学んでいることが、今までの学びとどうつながっているのか、これからどうつながっていくのかを生徒自身が認識し、自ら主体的に取り組む題材を考えていかなければならないと感じている。このような目的で設定された題材に取り組む中で、生徒が自己の学習結果に対する期待や自信を持つことができれば、希望や可能性を進んで広げていこうとする姿勢にもつながっていくものと考えている。題材に取り組む→自信→次の取り組みへの意欲→次の題材に取り組む→…と、このサイクルがスパイラル的に高まることで、生徒が学ぶ意欲を感じ取り、ひいては生きる自信を持つという自己肯定的意識が高まっていくものと考えている。そのために、生徒の主体的な学習活動、つまり互いに認め合い、自己表現や自己発揮ができる学習、粘り強く取り組める学習を今後も引き続き構想していきたい。この学習構想に基づき、学ぶ過程や学んだ成果に自信や達成感を感じることができる授業づくりを目指していきたいと考える。

この主題を追究するためには、題材が生徒の実態に即しているか、学ぶべき内容がふさわしいかを確認することが必要であろう。そして授業の中にいかに生徒が学びのつながりを意識し、主体的に取り組む活動を仕組んでいくか、また生徒自身が資質や能力の高まりを自覚できるような教師の働きかけや評価の在り方にどのようなものがあるか、このようなことを念頭に置きながら中学校の3年間を通して総合的に生徒の成長に寄与するための研究をしていきたいと考えている。

2 全体研究との関わり

平成24年度から実施される学習指導要領では、習得、活用、探究の学力の過程が「生きる力」につながるとし、理念的なものは変わらないものの現行の指導要領からの改訂のポイントとして、基礎的・基本的な知識、技能の確実な定着とそれらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成などを掲げている。美術科としては表現や鑑賞の指導を通して、小学校から共通に働く資質や能力（[共通事項]）を育成することが新たに加わり整理されたが、これは全く新しいものではなく今まで大事にしてきたものをまとめたものである。この[共通事項]をしっかり押さえること、つまり形や色彩、材料などについて意識して取り組むことは、美術の授業だけ

でなく、普段の生活の中でも形や色を意識し豊かに感じ取れる子どもたちを育てられるようにしたい、さらにはビジュアルな文化社会を豊かに生きていけるようにしたいという考えの基に設定されたものである。これは本校で目指す研究テーマともリンクする部分である。

全体研究の中で、一昨年度から繰り返し使われている“かかわり”を本年度も踏襲し、引き続き「学習内容の関連性」について研究を進めていく予定である。美術科における“かかわり”とは、「これまで生徒が小学校の図画工作科をはじめ様々な学習や日常生活の中から獲得してきた資質や能力を、美術の表現や鑑賞の幅広い活動から感性や感覚、想像力を働かせた体験を通してさらに高め、日常生活との相互のかかわりによって高めていくこと」とした。生徒の実態に合わせ、生徒が意欲的に取り組める題材を設定し、評価や学習活動を通して生徒が自分の資質や能力の高まりを実感し、その喜びを味わいながら活動を続けていけるように工夫していくことが大切である。美術科では、生徒自身が学習活動を通して自己の資質や能力の高まりを実感することができるよう、感じ取ったことをもとに主体的に取り組む題材や学習活動を仕組んでいきたい。

3 研究のねらい

具体的な研究目標

生徒がかかわりを見だし、学びのつながりを意識した指導と評価の在り方について探る

- ・かかわりを見だし、学びのつながりを意識した題材の開発と実践
- ・生徒が学びのつながりを意識し主体的に取り組むことができるワークシートの工夫について

4 研究計画

1年次 生徒の実態に則し、生徒が主体的に取り組む題材開発について

- ・かかわりを見だし、学びのつながりを意識した題材の開発と実践
- ・題材・授業における基礎・基本の明確化（1年生にとってどのような資質、能力を育てるか）

2年次 生徒がかかわりを見だし、学びのつながりを意識した指導と評価の在り方について探る（本年度）

- ・かかわりを見だし、学びのつながりを意識した題材の開発と実践
- ・生徒が学びのつながりを意識し主体的に取り組むことができるワークシートの工夫について

3年次 生徒がかかわりを見だし、学びのつながりを意識し主体的に取り組む題材の開発とその実践

- ・かかわりを見だし、学びのつながりを意識した題材の開発と実践
- ・題材のねらいに則した生徒の活動の読みとりについての工夫
- ・まとめ（成果と課題の検証）

5 本年度の研究

(1) 本年度の研究目標

- かかわりを見だし、学びのつながりを意識した題材の開発と実践
- 生徒が学びのつながりを意識し主体的に取り組むことができるワークシートの工夫について

(2) 研究内容

- ①生徒が、かかわりを見だし、学びのつながりを意識し主体的に取り組む題材を引き続き開発し実践する。
 - ・過去の学習で学んだことや自分自身の生活体験から得たことなど、また総合的な学習の時間（本校ではSELF）で行っている学びをリンクするなど、生徒がそれらを新たに組み替えたり、学んだことを組み入れたりしようとするような題材を開発する。
 - ・生徒が自ら学びに生かせるワークシートや評価方法を工夫する。
- ②学びのつながりからどのような資質・能力の育成に寄与するか、また生徒の様子を的確に把握できる教師の「読み取り」の工夫をする。
 - ・生徒の思考の過程や変化がわかるワークシートの構成や活用方法を工夫する。

《参考文献》

- ・「中学校学習指導要領の展開 美術科編」 遠藤友麗 編著 明治図書 1999
- ・「新しい学習指導要領を読む 図画工作・美術」 日本文教出版 2008
- ・「美育文化5 2008 Vol.58 No.3 特集 新・学習指導要領を読む」

第2学年 美術科 学習指導案

山梨大学教育人間科学部附属中学校 美術科

指導者 小田切 武

1. 題材名

「私たちがつくる かんきょう・アート」 ～グループワークでかんきょうを考える～

(環境, 感・響, 感興)

現行<学習指導要領 (A表現(1)及びB鑑賞(1))>

新<学習指導要領 (A表現(1)(3)及びB鑑賞(1) 共通事項(1))>

2. 題材について

(1) はじめに

地球温暖化が深刻な問題として取りざたされて久しい。温室効果ガスの削減, 京都議定書に関する話題など政治, 経済, 社会面と新聞やニュース, 雑誌などに環境やエコについて目や耳にしない日がないほどである。政権交代が行われ, 過日, 地球温暖化対策として鳩山由紀夫首相が二酸化炭素(CO₂)など温室効果ガスの排出量を「2020(平成32)年までに1990年比で25%削減する」と国連で表明したことが大きく報道されていた。近年3R(リデュース: ゴミの再生抑制, リユース: 再利用, リサイクル: 再生利用)の推進が図られ, 家電製品や日用品, オフィス機器, 自家用車などの一般消費財から, 各種素材, 住宅関連, エネルギーなど多岐にわたって考えられるようになった。エコに対する法整備も進められ, 以前の環境VS経済の図式は崩れ, イメージだけのエコ戦略も通用しなくなってきている。エコ・ポイントの導入など, 現在では企業にとっても「環境」は社会的責任であり, 顧客維持の要であり, コスト削減策であり, 市場での生き残りをかけた重要なテーマとなっている。そして, 芸術分野においても絵画, 彫刻, 建築, 音楽——ジャンルを問わず, 近年様々なアーティストが“エコ”をテーマにした活動を積極的に行っている光景をよく目にする。このような状況の下, 中学生の段階において環境やエコロジーについて考え感じたことをもとに, 今まで学習してきた形や色彩, 材料などからイメージをふくらませ表現していくことはとても重要な意味ある取り組みであると考えた。これは, 後述する新学習指導要領における「自己・他者・社会」という教育理念に通じるところでもある。

(2) これまでの活動

昨年度は, オートマティズムの技法で制作したカード(素材)を基にコラージュ技法を使って「表情のある顔」を制作した。これは, とかく図画工作から美術に変わるときに起こりやすい「中1ギャップ」を回避するため, また新しい学習指導要領を踏まえ, 小学校からのつながりを意識して, 馴染みやすぐ今まで学んできたことをもとにイメージをふくらませ, 中学1年生としてしっかりとステップアップできるようにという思いから設定したものである。形や色彩から広がるイメージをもとに, 思い浮かんだ喜怒哀楽の感情を, 今まで経験してきた状況に照らし合わせ表現したり, また, 自分で思い描く表情をもとに, 形や色彩, 技法を選択し, 表現に必要な素材を用意し制作していくことで, [共通事項]である, 形や色, 組み合わせなどの感じをとらえ, 自分のイメージがもてる取り組みにしたいと考えた。生徒は偶然できた形や色の組み合わせによる模様を楽しんで制作していた。色彩による感情表現について学習することで色の特徴を理解し, 自分のイメージする表情のある顔を意欲的に制作していたが, 今一つ具体的な状況においてのイメージではなかったため, 微妙な形や色彩に目を向けるところまでには至らなかった。

続いて鑑賞授業を仕組むことにより, 前題材で育んできた形や色彩から感じ取る力を更に育てたいと考え, 名画を鑑賞し, 自分なりの解釈を交えて制作する「チャレンジ! アレンジ・アート」に取り組んだ。美術作品の見方, 読み方を深め, 美術文化に対する理解を深めるとともに, よさや美しさを味わうことができるよう指導に臨んだ。作品を鑑賞することは, じっくり観察し, どのように表現しているか, その理由を考えることで観察力や分析力を高めることができる。更に作品の背景を探ることによって歴史的事象にも目を向けることも視野に入れ取り組みを行った。生徒からのまとめの感想からも, 以前は単に漠然と作品を見ていただけだったが, この題材に取り組むことで見方を学び, 違った視点で見ることができるようになったと書いた生徒が多かった。この違った視点を, 更に現代の社会へと視野を広げ, グループ活動を通して感じ方, 考え方を形や色彩, 材料などを基にイメージを持たせ, 発想・構想し創意工夫して更なるレベルアップを図っていきたいと思う。

(3) 生徒の実態

知的好奇心が旺盛であり, 授業に積極的に取り組む姿勢を持っている。しかし, 価値が多様である美術に対して

は周囲の顔色を窺いながら“正解”を模索している生徒も少なくない。このような意味においてはステレオ・タイプの生徒が多いとも言え、個性を大切に、違いづくりを応援していくよう授業で努めている。今後の課題は、この固定観念を崩し、試行錯誤を短時間の中で体験させ、作品に込める‘意味’をさらに充実したものにできるようにしていきたいと考えている。自信のなさから判断を渋り、面白い発想を自ら封印してしまう場面も見受けられるためグループでの交流を経て、表現に関する自信を持ったり「これでもいいんだ」という、それまでの価値観の転換が行われるような取り組みを仕組んでいこうと思う。

事前のアンケートで「環境」や「環境問題」については、地球温暖化、海面の上昇、ゴミ問題、砂漠化などの原因や代替エネルギーなどについては一応の知識はあるものの、メディアが作りあげたイメージが先行しており、エコを推進しつつもその裏にある矛盾まではあまり結びつけて捉えてはいない。そこでグループ活動を通して社会的な視点に立つてものごとをとらえ、深く掘り下げて、それを基に適した材料を選び、その特性や組み合わせなどから発想し、構想して独創的・総合的な見方や考え方ができるようにしていきたいと思う。更にそれらを生かして創造することの楽しさを感じられることに繋げられるようにしたい。

(4) 本題材に関わって・・・

自己と他者、それを取り巻く社会を視野に入れ、本題材に盛り込むことを考えた。少子高齢化、アメリカ発の経済不況による様々な影響など、社会的な問題は数多くある中で、人類が今後避けて通れない「環境」について取り上げ、グループワークを通してお互いの考えや感性を感じ取り、認め合う活動になればと考えている。

また、エコとアートの共通点としては、“想像力”だとアーティストの日比野克彦氏が語っていた。「エコは基本的には目に見えないもので、何か自分がエコ活動をしたとしても、すぐに影響が出るわけではない。それは長い時間かかって現れてくるものである。例えば、CO₂がどうのと言ってはいるけれど、シャワーのお湯を出しっ放しにしても、自分ひとりぐらい関係ないと思ってしまえば変わっていかない。しかし、今、お湯を出しっぱなしにしているということが…という、見えない“先の先の先”の状態を想像していくと、(お湯を)止めておこうという気になるのではと。そういう“想像力”がないとエコの意識は生まれにくいし、美術にしても同様である」と言う趣旨を語っていた。非常に的を射たコメントであり、本題材を実践するに際しての基本的な考え方に通ずるものであると思っている。豊かな想像力を持つことができれば、それだけ環境に対しても真剣に向き合うことができ、そこでの気づきや発見したことをもとに想像力を働かせて創造していくことができれば、人の心、意識を変えていくアートの力も実感することができるのではと思う。

具体的には、個人で環境について考えることから始める。これは、本校のSELF(Search, Experience, Enjoy, Life planning, with Friends: 総合的な学習の時間)とも関わって、林間学校での学習にも、「環境」をテーマに位置づけ取り組んでいる。教科間との横のかかわりを視野に入れ、授業時数の少ない美術の活動を補う形をつくることにも繋げることができた。

発想・構想することに際しては、素材から入る生徒もいるだろうし、身近で感じる現象の原因を考える生徒もいるだろう。その中から材料の特性を考え、ゴミや再生素材を使ったりしながら、環境問題やエコなメッセージを込めた作品制作ができればと考えている。(今回は環境芸術として取り組むわけであるが、街中の景観のための野外彫刻や大地そのものをキャンバス代わりに使ったランド・アートのものまでは含まない。ただし目的が環境問題に関するものとしての表現ならばこの限りではない)。主題などを基に関連する素材(材料)から受ける感じや組み合わせなどを考え、イメージをふくらませて表現していきたいと思っている。共に「環境を考える」ことを通して、感性を育み響きあう活動ができたと思う。脳科学者の茂木健一郎氏は、「環境を考えることはその人の生き方を考えることだ」とTVメディアで語っていた。本題材が今後の生き方を考えるきっかけとなることを期待したい。

(5) 学習時に配慮すること(本校の研究とかかわって)

- ① 12時間で学習を完了する。
- ② 環境問題に関して誰に対してのどんなメッセージなのか設置する場所なども考えて制作する。
- ③ 企画から作品完成までグループで制作する。

これらの制約を確認した上で構想を練り始めることにする。

本校では‘かかわり’をキーワードに研究を進めてきた。このかかわりは既習の学習内容や教科の中での全体との位置づけ、日常事象とのかかわりを意味するものである。理科や社会、総合的な学習の時間などともかかわり、日々生活している「環境」に目を向けさせることはまさに日常事象とのかかわりを考えていくことであり、これまで育んできた形や色彩、材料などの性質やそれらが周囲に与える感情などを考え、作品制作を行っていくことは本校の研究方針に沿う内容である。元々美術は自己を表現していく教科であるので、インプットしたことをアウトプ

ットしていくという全体研究の流れに対しても自明である。

また、平成24年度実施の学習指導要領では、美術の表現及び鑑賞の指導について、「共同で行う創造活動」を3年間の中学校生活の中で適切な時期を選び、指導計画の中に位置づけるように配慮して行わなければならないとある。本題材は、「環境」という誰もが今後考えていかなければならない共通した課題であること、中学2年生という中堅学年において、発達段階においても自我が強くなる時期に、周囲との関わりを持たせ共に考えさせることが重要であるという点で適した時期であると判断した。さらに、グループ制作にする理由には、コンセプトの共有により企画に対しての自信をつけさせたいということ、制作を進める際に得る多くの刺激が自己の新たな発見や他者理解（考え方の相違も含めて）につながり、また自己評価のレベル向上にも結びつくことを期待したからでもある。人任せにしてしまうことが懸念されるが、個別に、グループごとに働きかけを行い、自分の意見を明確に持たせるようにしていきたい。また企画会議録のようなものをそれぞれに記入させることにより、グループ内での他者との話し合いの中でどのようにしてコンセプトができたか、そのプロセスがわかるような「学習ガイド」を用意したいと考えている。

評価についてはこの「学習ガイド」を有効につかって個別指導およびグループ指導を行っていくとともに、意欲を喚起するようにしていきたい。

3. 題材の目標

- ・ 私たちのおかれている環境について感じ考え、試行錯誤を繰り返しながら表現する。
- ・ よりよい環境を実現するために何をしたらよいのかを共に考え、構想を練り、それを基に必要な材料や用具を選んで創意工夫し表現する。
- ・ 作品を鑑賞し、その意図や工夫を感じ取り、批評し合う。

○美術への関心・意欲・態度

日々生活している環境に目を向け、それについて真剣に考えようとしているか、このことがまずできなければ、その後の活動もそこから生み出される作品も安易なものになってしまう。ここでのモチベーションがしっかりと持つことができれば、その後の活動も必要な情報をインターネットや本などから積極的に得ようとしていたり、よりよい作品を制作しようとグループ内での企画会議において、様々なものなどを媒体に、そこからインスピレーションを得て試行錯誤していこう。自分の意見を伝え、他者の意見をしっかりと聞こうとする姿勢も現れると思う。このグループにおいての試行錯誤を繰り返しながら、一人ひとりがよりよいものを追求する気持ちを身につけていってもらいたい。

○発想や構想の能力

周囲に対し「環境」に目を向けさせたり、またよりよい環境づくりをするためにどのような方法があるか、形や色彩、材料の特性などを考え構想を練っていく。「もの」だけでなく、「光」や「音」といった付加的な要素にも着目させ、「想い」の具現化に結びつけるようにしていきたい。

また、生徒相互の意見交換からアイデアがどのように変化をとげていったのかがわかるようなワークシートを用いて評価をしていきたい。

○創造的な技能

表現意図に応じた素材を考え、効果的に表現しているか考えながら制作に臨んでいくようにする。「材料」には制約を設けず、グループの話し合いの中で考えさせていきたい。要らなくなった廃材などを有効な材料として触れるが、予算の中で自分たちの「目標」が達成できるようにアドバイスをしていく。扱いに危険を伴う素材の場合（ガラスなど）細心の注意をはらって指導するが、なるべく代用できるものを考えさせていきたい。

短時間の制作を強いられるため事前の計画に沿って作業を進めていくが、メンバーの話し合いを大切に、修正を加えながら進めることを特に示唆する。表現テーマに沿ってこだわりをもつことで、どうすれば自分たちの欲求を満たす作品に近付くことができるか実践の観察から確認していきたい。

○鑑賞の能力

現代のアーティストが行っている活動などを紹介する。作家の表現意図を考えさせる。作品完成後の鑑賞では、環境に対するそれぞれの視点について理解し、見方が広がっているか、どのような目的でどう表現したのか表現意図を探り、表現の工夫を感じ取り批評しあう場を持ちたいと思う。個々のレポートを確認して評価していきたい。

4. 題材の評価規準

観点	(A表現(1), B鑑賞)			
	基礎的・基本的な知識技能			
	【共通事項】形や色彩, 材料, 光などの性質や, それらがもたらす感情を理解すること。 形や色彩の特徴などを基に, 対象のイメージをとらえること。 材料・用具の取り扱い, 形や色彩などに関する幅広い知識・技能			
	環境について考えたことを形や色彩, 材料などの特性を理解し, そこからイメージをもつ。			
	思考力・判断力・表現力等を身につける力			
	ア; 美術への関心・意欲・態度	イ; 発想や構想の能力	ウ; 創造的な技能	エ; 鑑賞の能力
題材の評価規準	<ul style="list-style-type: none"> 自ら進んで創造的な発想・構想をし, 自分らしい表現を創造しようと試行錯誤を通して工夫を重ね, 自分らしい表現を創造していこうとする 鑑賞する喜びを味わい, 自然や生活と美術との深いかわりを理解し, 美術を愛好し心豊かな生活を創造していこうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 独自の・総合的なものの見方や考え方をとおし, 豊かな発想・構想をする 構成の仕方や材料の組み合わせなどを工夫して心豊かな表現の構想を練る。 表現の過程を通して自己確認をし, より創造的な表現を目指して創意工夫, 修正をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 多様な表現方法や材料などの生かし方を工夫し創造的に表現する。 自分の経験や知識, 想像力などを生かし, 創意工夫して独自の表現方法やダイナミックな表現を工夫する。 材料の特性を考え吟味し, 表現に生かす。 	<ul style="list-style-type: none"> 感性や想像力を働かせ, 作者の心情や意図と表現の工夫, 多様な表現のよさや美しさなどを感じ取り味わったり, 批評しあったりして, 作品や生活の中の造形などについて見方を広げたり, 生活における美術の働きについて理解したりする。
学習活動における具体的評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ①新しいものを発想することを楽しむなど, 学習に意欲的に取り組んでいる。 ②よりよい表現を目指して試行錯誤をし, 創意工夫している。 ③自然や生活と美術とのかわりを理解し意欲的に鑑賞しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ①表現の意図や構想, 表現方法などを自己確認し, よりよいものにするために思考をめぐらせる ②材料を吟味しその特性を理解して生かし方を考え発想し構想する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①感性, 造形感覚や美的感覚など働かせ, 材料や用具を効果的に生かして美しく創造的に表現する ② 様々な表現方法を工夫し, よりよいものにして創意工夫する 	<ul style="list-style-type: none"> ①様々な作品を鑑賞し, その意図や表現の工夫, よさを感じ取り味わったり批評したりして見方や感じ方を深める。 ②生活を心豊かにする美術の働きについて理解を深める

○おおむね満足できると判断されるもの (B) の状況想定

	関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
B おおむね満足できる	<ul style="list-style-type: none"> 時間を有効につかい, 毎回の学習に意欲的に取り組んでいる。 学習ガイドで自己評価を行い, 目標を掲げて次時に臨んでいる。 作品の意図やその良さを感じ取ろうと意欲的に鑑賞しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 制作活動の充実のために, 試行錯誤を繰り返しながら準備の活動を行っている。 仲間と相談して自分たちの構想に合った材料選びをしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 仲間と協力しながら着実に作業を行っている よりよいものにして創意工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> 他の人の意見にも耳を傾けつつ, 偏りのない自由な感じ方をしようとしている。

5. 指導と評価の計画 (全12時間; 600分間/短縮により変更あり)

☆が本時

- I-1 100分間(2) ①表現意図の確認のためのガイダンス1
グループ分けのための調査実施
- I-2 100分間(2) ①ガイダンス2 (グループを発表)
企画会議1 (テーマ検討, 決定)
(I-1②で制作したものをもとに)
②企画会議2 制作準備☆
- II-1 250分間(5) ①②③制作1 (素材準備+パーツづくり)
④⑤制作1
- II-2 100分間(2) ①制作2 (セッティングなど)
②制作2
- III-1 50分間(1) ①鑑賞; 作品鑑賞会 ふり返り・まとめ

時 分	学習活動	評価				評価方法 (☆; Cへの手だて) 備考
		関心	発想	技能	鑑賞	
50	I-1① (ガイダンス) □制作意図の確認 ○環境問題とアートについて どんな活動をしていくかの説明。グループ活動で制作していく ことの意義など。 ・グループ編制の調査 (アンケートの実施) □題材導入のためのワークショップの準備 環境を劣悪にしているもののかたちを考える。					□調査用紙 □取り組みの様子&学習ガイドの記述内容 ▲環境を劣悪にしているものの形をアイデア スケッチする。 (大気, 人のエゴなどの形をイメージ) ※学校で実現可能なものを中心につかう ▲実際に制作 □表情および行動を確認 □学習ガイドの記述内容 ☆環境問題の原因などを考えるようにする
50	I-1② (ガイダンス1-2) (個人活動) □環境を劣悪な状態にしているものの形を表現する☆公開授業 ○個人で環境を劣悪にしているものの造形表現。 汚染された大気, 水質汚染, 人間のエゴなどを粘土で形づくる。 *どんなものをイメージして制作した か, 巡回し確認をしていく。授業後, 事前のアンケートとこの授業での造形 意図とを鑑みグループをつくる。	①	②	①		□学習ガイドの記述内容 □学習ガイドの鑑賞ページ ☆グループ代表に働きかけを指示 具体的な環境問題について考えさせ、そこからイメージを広げられるように働きかける。
50	I-2 (ガイダンス) (グループ活動) □企画会議1 ①グループメンバー発表 ②テーマ, 表現のための話し合い ○グループのテーマ検討, 決定素材, 環境問題の原因 (食糧問題, 生態系, 森林環境など), 大量消費・無駄使い, など。 総合的な学習の時間 (SELF) とのかかわりからもアートの視点で考える。 (各自HW; アイデアスケッチ, 企画書作成, 自分の考えを準備し, グループ内で作品意図を伝えられるようにする) □企画会議2 (☆本時)	①②	①		①	□学習ガイドの記述内容 □学習ガイドの鑑賞ページ ☆グループ代表に働きかけを指示 思い描いたイメージについて, お互いに発見したり, 共感したりする部分を伝えあい, 材料の選択や表現方法などに生かせるよう対話を重ね
50	①テーマ ②どんな意図でどんな材料で, どのよ に表現するか 作品の企画書作成 (各自HW; 材料になるものの準備)	①	①②		①	□学習ガイドの記述内容 ▲使用するものを紹介 ▲班内の協力を促す ☆一人一提案を基本で

グループ内でI-1②で各自制作したものを基に, 組み合わせたり省略したりしながら, 劣悪なものを更に強調したり, またそれらを無くしよりよくしていくための仕組みを考え企画を練る。

アイデアがだいたい固まってきた時点で, できるところから制作を行っていく。

活用

50	II-1-1 □グループ制作1（1時間目） 素材準備、役割分担など		①②	①②			▲班内の協力を促す □学習ガイドの記述内容
50	II-1-2 □グループ制作1（2時間目） 材料選択、パーツづくりなど		①	①②			□学習ガイドの記述内容 ☆グループ代表に働きかけを指示
50	II-1-3 □グループ制作1（3時間目） ・美術作家によるエコアートの作品紹介（再検討喚起）		①	①②	①	①	□動き+学習ガイドの記述内容 □学習ガイドの鑑賞ページ
50	II-1-4 □グループ制作1（4時間目） 計画的に制作を進める。		①②	①②	①		□動き+学習ガイドの記述内容 ☆グループ代表に働きかけを指示
50	II-1-5 □グループ制作1（5時間目）		②	①②	①②		□動き+学習ガイドの記述内容
50	II-2-1 □グループ制作2（1時間目） 作品のセッティングなども考えながらつくりかえたりする。		②		①②		□動き+学習ガイドの記述内容
50	II-2-2 □グループ制作2（2時間目） 作品の完成		②		①②		□動き+学習ガイドの記述内容
50	III-1 □作品鑑賞会（鑑賞4） 他のグループの作品も鑑賞する。 どのような意図で制作したか読み取る。説明を聞き、お互いに批評しあう。 「鑑賞シート」に記入 □ふりかえり・まとめ（鑑賞5） 「学習を終えて」を記入 指導者のまとめの話		③			①②	□学習ガイドの鑑賞ページ □学習ガイドの記述内容

作品制作は7時間を予定。表現(2)も視野に入れ便宜上、制作I IIと分けた。

本題材で意欲・活用・習得する学び
意：環境問題に関心を持ち意欲的に表現している。今回の題材で取り組んだことが環境問題について即結果として改善されるわけではないが先の先の先をイメージして取り組むことが大事である。どれだけ深刻な問題なのかは美術で育てる想像力に通ずる部分がある。
活：形や色彩、材料の特性を考え、適した用具を使い、これまでの習得した発想・構想や技能面などの資質・能力を発揮している。
習：教えられ学んだことをもとに表現し、その中で更に資質・能力が深まり知識・技能の習得が図られる。

6-1. 本時の学習（I-1；環境を劣悪なものにしているものの造形表現）

- (1) 日時 平成21年7月4日（土） 9:40～10:30
- (2) 場所 山梨大学教育人間科学部附属中学校 美術室および前庭
- (3) ねらい 環境を劣悪な状況にしているものの形をイメージして粘土で形をつくる。
1年時において、平面の制作が主だったこと、作品鑑賞において制作された時代の社会的背景も重要であるということを経験したが、それを現代まで引き上げたときに、自らの視点で社会をみなければならぬことに難しさがあるだろうという理由から、導入段階で今後の取り組みのきっかけを与える目的で本授業を設定した。
- (4) 生徒の実態 学級の雰囲気は概ね明るい。諸活動に意欲的に取り組む生徒が多いが、けじめに欠ける部分も見られる。中には集中してものごとにとりくむことができない生徒もおり、気分を乗らせる働きかけが特に必要なものもある。自己主張をしっかりとる生徒が多いが、美術の表現に対する自信がもてない部分も見受けられる。そのため仲間同士の働きかけから自信を持たせ表現の能力を引き出させたいと考えている。
- (5) 展開についてはHPで。

6-2. 本時の学習2 校内研究授業

- (1) 日時 平成21年10月5日(月) 6校時
- (2) 場所 山梨大学教育人間科学部附属中学校 2年1組教室
- (3) ねらい
 - ・環境に関してグループで決めたテーマをもとに自ら考えた作品のアイデア(思いや工夫したことなど)を発表する。
 - ・発表をしっかりと聞き、自分の価値意識をもって意見を述べ、企画検討する。今回はアンケート調査によって1グループ6, 7名で、6グループで構成されている。
- (4) 展開についてはHPで。

7. 成果と課題

昨年度は、絵画を様々な視点から鑑賞し、そこで気づき感じたことを自らの表現に活かすという学習課題を設定した。そこで培った資質を、今度は現代の社会に目を向けさせ取り組んだことは、課題の対象の飛躍からも、生徒にとってはハードルの高さを感じたことだろう。このような懸念からもグループ学習を仕組むことによって、それを解消しようと試みたわけである。作品のコンセプトを決めていく上で、最初に個人のアイデアを練り上げ、その上で意見交換をして方向性を確認していく作業を行った。今までとは違う授業形態も手伝ってか、課題に対する意識の向上が見受けられたと共に、美術における言語活動の推進も行うことができた。学習ガイドも生徒にとって何をしていくのかの指針となると共に、教師側も授業後に跡追いができる点やコミュニケーションの手段として有効に使えた。実際、事後のアンケートから、環境に目を向けるようになったと答えた生徒が多くいたことは成果としてあげられる。また、今年度はCOP15の開催など、環境に関するタイムリーな話題もあって、意識的に授業の中や日常生活の中でも話をするようにしたことで一層関心をもって取り組むことができたのではと思う。相乗効果として本題材を仕組むことにより環境に関するタイムリーな話題へも興味を示すことにつながったのではと思っている。

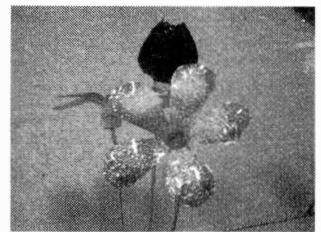
実際の制作場面では役割分担がしっかりとできているところは作業がスムーズに進んでいる様子が伺えたが、一部のグループでは中心となる生徒の意向が進められる面もあり、グループ活動の課題点も浮き彫りになった。また、生徒たちにとっては環境に対して関心を持ち、自分たちの思いや考えを深めるきっかけにはなったと思うが、ある程度の段階までくると「このくらいで」という思いがでるのか、最後までこだわるところまでは今一步である。また以前に比べると広がってはきているが、例えば材料についても他グループが使っているものを安易に使うなど、まだまだ堅い部分があるため、今後も自ら思考し判断して自分なりの表現に自信を持って取り組んでいけるような取り組みを仕組んでいきたいと思う。

本題材に限ったことではないが、週1時間のため学校行事や祝祭日などで2, 3週間授業があいてしまう時もあり、モチベーションを保たせることに苦慮した。今回のようにグループワークを取り入れ長時間での学習計画を進めていく上では一層実施する時期や内容を吟味する必要性を感じた。

8. 本年度の研究のまとめ

昨年度より3カ年計画で「感性を豊かにし、生徒が主体的に取り組む題材の開発」～学びの「つながり」を意識した活動を通して～というテーマのもと、研究を進めてきた。その中で「生徒が学びを実感する」ことが次への活動に主体的に取り組むことにつながるための重要な要素と考えた。学びを実感するとは、「生徒自身が本来持つ資質や能力の高まりを自覚する」ことである。資質、能力の高まりを実感することは目に見えるものは分かりやすいがそうでないものを実感するという事は、ある一定の期間の中で自己省察する場面を設定する必要がある。そこで、アンケートを事前事後で実施した。

まず、美術に対する関心・意欲・態度についてであるが、関心としては決して高いわけではなかったが、概ね真面目に取り組む姿勢は持っていた。小学校時と比べるとよくやっていると回答した生徒が半数近くいることにも、(あくまで比較であるが)前向きに取り組む姿勢につながっているものと感じた。努力を要すると回答した生徒に



ペットボトルを加工してつくった花。



ペットボトルのキャップ800個でつくった注射器。これでワクチン1つ。



酸性雨で溶け出した様子をろうそくを溶かして表現したもの。

は大きく分けて2種類おり、自分のイメージしたことを表現として上手に表せないもどかしさからのものと忘れ物が多く提出が守れないというものであった。今年度の活動から、更に美術に対して意欲的に取り組んでいると答えた生徒が相対的に増えたことは成果としてあげられる。

次に発想・構想の能力については、今までの取り組みを見てみると教科担当としては、まだまだ堅さがあるように感じるわけであるが、生徒たちは豊かになったと感じている生徒が6割強いた。発想が乏しくなったと答えた生徒には、明らかに知識は増えたのだが、そのことによっていろいろ考えてしまい思うようにアイデアが浮かばなくなったと答える生徒が多かった。知識を活用する能力が求められているとともに、よく分からないと答えた生徒も含め自己評価能力を高めていくことの必要性も明らかになった。そこで本題材では、自分の考えに自信をもつための方策として、またアイデアを思いつくきっかけとしてグループ学習で制作していくことにした。協力しながら、他者の意見を聞き、仲間の意見に感心しつつ、もっと良いアイデアを出そうとする姿勢にもつながり、明らかに思いつかないと答えた生徒の数が減少したことは評価できると思う。

創造的な技能についても発想構想の能力と同じような結果が得られているため上記のものとあわせてレベルアップができるよう今後も図っていきたいと考えている。

鑑賞の能力であるが、これは昨年度の題材において、作品鑑賞をもとに自らの解釈を交えて名画をアレンジするという題材を行ったことが良かったのか、以前よりも劣ったと感じている生徒がいなかったのは成果としてあげられる。この題材を行う以前は、ただ何となく作品を見ていたものが、細かいところまで観察し、または作者の人生や時代背景にまで広げて鑑賞することで、以前では気づかなかったことや違う感じ方ができるようになったと答えた生徒が多かった。よく分からないと答えた生徒が3分の1ほど

いるので、引き続き見る観点などを意識した言葉かけや働きを行っていきたいと思った。今年度のなつて今回の題材は、一般的に言うファインアートとは違うので、絵画や彫刻を鑑賞することが目的と考えている生徒にとっては、そのような取り組みをしていないことで、よく分からなかったり以前よりもできないと答えた生徒もいたが、視点を増やし作者がどのような考えのもとで制作したかを推しはかたり、共感することの楽しさやその辺の花の咲いている鉢の位置など気になったりと日常生活の中にも色々なものに関心を向け考えることができるようになった生徒も出てきた。

夏期の教育課程においても話された内容であるが、上記の美術科での観点を美術室にわかりやすく掲示するなど、今後も常に意識させ資質・能力の向上に努めていきたいと考えている。

《参考文献》

『がんばっている日本を世界はまだ知らないvol. 1, 2』

枝廣淳子+ジャパン・フォー・サステナビリティ (JFS) 海象社

『不都合な真実』アル・ゴア

『中学校学習指導要領解説 美術編』文部科学省

『横浜版 学習指導要領 図画工作科, 美術科編』横浜市教育委員会事務局 ぎょうせい

エコロジカル・アート〈環境芸術〉<http://www.kyoto-wu.ac.jp/~tutida/>

アーティスト日比野克彦氏インタビュー日比野流「エコとアートのカタチ」

http://eco.nikkeibp.co.jp/style/eco/interview/070907_hibino01/

